

藏野製材株式会社

ものづくり技術

一般型

時代のニーズに合わせた事業展開 パレット事業に活路を見出す

事業内容

紀州木材の加工・販売が主軸 時代のニーズを読み取る力が強み

1921年(大正10年)に紀州木材を使ったみかん箱(木箱)の製造を目的に創業。以来、みかんの出荷箱が木箱からダンボールに取って代わるまでは、みかん箱の製造が同社の中核事業であった。

その後、一般住宅用に紀州木材の製材を手掛けるようになり、工務店への販売が主要事業となる。特に木造住宅に使われる構造材(柱・桁・土台)の加工を得意とし、地元湯浅を中心に供給してきた。また、「ホームセンタークラノ」を開店し、金物をはじめとした商材を取り揃えて地域密着で販売を開始した。現在でも同店は地域で支持されており、簡単な修繕工事も請け負っている。

現在は、住宅用製材事業に代わり、パレットの製造が主要事業となっている。これも紀州木材を加工したもので、物流倉庫や工場内で使われるパレットとして、大阪・奈良方面へ出荷している。創業から30年を超えると長寿企業と呼ばれるが、同社は100年近く事業を継続している。その事業内容は変化しているものの、どの時代においても一貫して紀州木材の加工を行っていることが同社の特徴である。

経営に行き詰まる製材業者も多い中で、紀州木材の加工事業を幅広く展開し、時代のニーズを読み取って供給してきたことが、現在同社が生き残っている所以である。

補助事業

建築用木材の需要が先細り 生産効率の向上が必須

日本建築の住宅の需要が減り、紀州木材を加工した建築用木材の引き合いが年々減少している。かつては主力であった建築用木材が売上に占める比率は20%程度にまで落ち込んでいる。これから先、建築木材の需要が増えることは想定しづらいことから、パレットの製造に一層力を入れていく必要が出てきた。

そのような中、パレットの販売先からの値下げ要請は年々厳しくなっており、生産効率を向上させることによってコスト競争力を持たせなければならなくなった。単純工程であっても人の手で作業する工程があったため、その工程を自動化することにより、生産効率は改善の余地があった。

また、単純工程を自動化することにより、その単純工程に従事していた従業員の時間をより複雑な工程に費やすことができる。結果的には付加価値の高い製品を多く生産

することに繋がり、パレット事業の利益率向上が期待できた。

そこで、今回の補助事業では、パレット事業の利益率向上を目的に「ローラーコンベア式パレット組立及び自動積上げ機」を導入、単純工程の自動化を行った。



藏野製材 株式会社

代表取締役 蔵野 圭一
〒643-0004 有田郡湯浅町湯浅2735-1
TEL: 0737-63-1161 FAX: 0737-63-1162
E-Mail: h-kurano@taupe.plala.or.jp

〈業種〉一般製材業
〈創業〉1921年10月
〈資本金〉16,000千円
〈従業員〉16人

〈店舗〉ホームセンタークラノ
〒643-0004 有田郡湯浅町湯浅1808-5
TEL: 0737-63-3162
FAX: 0737-63-3163

成果

生産効率向上と新規得意先の獲得を実現 工程の見える化が課題に

ローラーコンベア式パレット組立及び自動積上げ機を導入してしばらくは、機械のトラブルが発生し、従業員が操作に慣れるまで時間を要したことから、生産効率が向上するまでに1年程度かかった。

ただ、生産効率が向上してからは、定型パレットの製造に割く時間が少なくなり、特注パレットや木箱など複雑な形状の製品の製造に従業員の時間を割くことが可能となった。そのため、これまで生産能力の限界から請け負うことができていなかった得意先からの依頼も受注できるようになった。具体的には、県内の歯車メーカーの納品用木箱、機械メーカーの輸出用木箱など、30~50個程度のロットの受注が得られ、一定の成果を上げることができた。

その一方で、パレット・木箱の生産量増加にともなって、材料をカットする工程の遅れが目立つようになり、新たに

切断機を購入するなどの追加的な設備投資も行っている。定型品から特注品までそれぞれ生産量が増える中で、人材の適正配置が一つの課題となっており、工程の見える化によって人員配置の問題を解決していきたいとしている。



今後の展開

新規得意先の開拓に注力 木製パレットの強みを活かす

パレットや木箱製造に新たな活路を見出し、生産効率の向上を実現し、新規得意先を獲得するなど、事業が拡大しつつある。今後の展開としては、既存の得意先である梱包材の商社筋との取引拡大に注力することに加え、新たな得意先の獲得を目指す。

プラスチックで作られたパレットは金型が高いため1個あたりの価格が高く、複雑な形状の加工ができないという欠点がある。一方、同社が手掛ける木製パレットは安い上に複雑な加工が可能で、また修理もできるという利点があ

る。同社では、小ロットから対応できる強みも活かして、木製パレットの優位性をアピールしていきたいとしている。また、他の材料と組み合わせることによって木屑が出ないパレットの開発など、研究開発にも力を入れる意向だ。

熟練工は少なくなる一方であるが、同社では若手の従業員が増えており、現場は活気で溢れている。若手の新たなアイデアや発想も取り入れつつ、時代の変化を見据えて事業を育てていく。

